

第2章 小野町の地域特性

第1節 小野町の地勢

小野町は阿武隈山系の中部、田村郡の南部に位置し、北東に田村市、南にいわき市、西に郡山市・平田村と隣接しています。

小野町の市街地は標高 400m 程度で、四方を標高 700m 超の山々に囲まれています。町の中央を右支夏井川が爽やかに流れ、これに沿って平坦地を形成しています。

まわりを阿武隈高原中部県立自然公園に囲まれており、この北部の高柴山にはヤマツツジ3万株の群生、東部の矢大臣山にはアズマギクが群生し多くの観光客を集めており、これらを含め町内の3ヵ所が「福島緑の百景」に選定されるなど優れた自然環境資源を誇っています。



小野町の位置

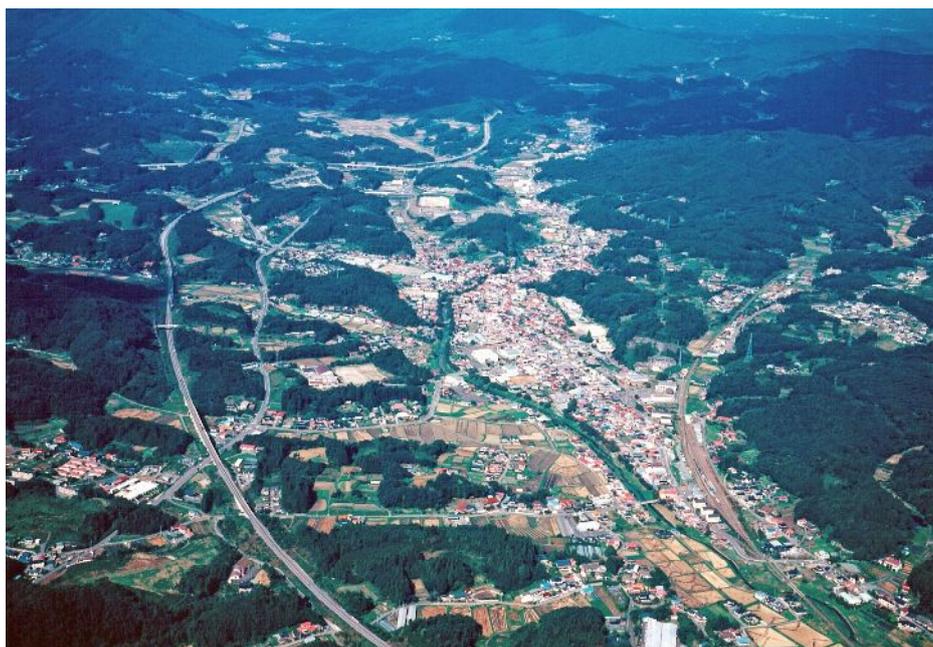


図 2-1 上空から見た小野町市街地
(資料:小野町 HP)



図 2-2 小野町町内案内図
 (資料:小野町町勢要覧 2005)

第2節 自然環境

(1) 小野町の特徴的な自然

小野町には、町の魅力ともいえる自然が豊富にあります。

町の中央を流れる右支夏井川沿いでは兩岸 5km にわたる桜並木“夏井千本桜”の美しい風景が楽しめます。

阿武隈高原中部県立自然公園に位置する高柴山では、5月中旬から6月上旬にかけてヤマツツジが咲き乱れます。

諏訪神社参道にある翁杉・媼杉(じじすぎ・ばばすぎ)は国指定の天然記念物です。樹齢はおよそ 1200 年です。

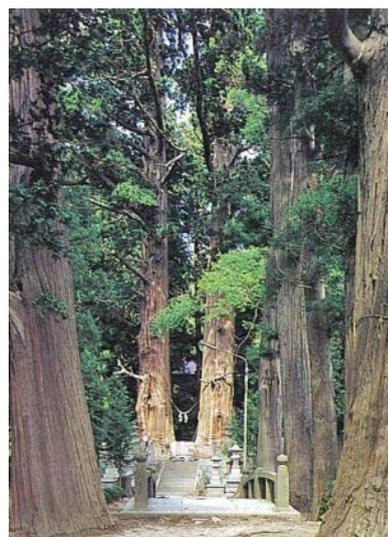


図 2-3 小野町の自然

上段:夏井千本桜、下段左:高柴山のヤマツツジ、下段右:翁杉・媼杉

(資料:小野町町勢要覧 2000・2005)

(2) 地勢・土地利用の状況

小野町は東西に 12.45km、南北に 15.95km、町の総土地面積として 125.11km² (12,511ha)という地勢です。

総土地面積 12,511ha のうち、都市計画区域面積は 7,023ha で、約三分の二にあたる 8,843ha が林野面積となっています。

表 2-1 土地利用の状況

総土地面積	12,511 ha
可住地面積	3,668 ha
都市計画区域面積	7,023 ha
耕地面積	1,610 ha
林野面積	8,843 ha

(資料:国土交通省・農林水産省ほか)

表 2-2 土地利用の状況(地積別)

総土地面積	12,511 ha
田	1,003 ha
畑	1,034 ha
宅地	332 ha
池沼	7 ha
山林	7,875 ha
牧場	39 ha
原野	66 ha
雑種地	312 ha
その他	1,843 ha

(資料:国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」)

(3) 気候

小野町役場に設置されている、気象庁「小野新町」アメダスデータから、小野町の気候の平年値(注)を表 2-3 に示します。比較として近隣の福島市、新潟市のほか、全国の主要都市の気象データも示します。

全国各都市のデータと比較すると、小野町の年間降水量は約 1,200mm と少なく、年間平均気温も低い方に位置しています。年間平均風速は秒速 1.2m となっており、風は穏やかであることがわかります。年間の日照時間は 1600 時間台となっており、山に囲まれた地形条件や晴天率などが影響しているものと考えられます。

表 2-3 小野町の気候(平年値)

要素	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)
1月	31.1	-1.0	3.3	-5.1	1.3	122.7
2月	47.9	-0.6	3.5	-4.7	1.5	134.0
3月	76.5	2.5	7.3	-2.1	1.6	151.9
4月	90.2	8.5	14.3	2.5	1.5	164.5
5月	106.4	13.7	19.5	7.6	1.3	158.7
6月	124.8	17.6	22.4	13.3	1.1	117.6
7月	173.5	21.2	25.8	17.4	1.0	128.5
8月	180.5	22.7	27.6	18.7	1.0	146.9
9月	193.1	18.5	23.0	14.6	1.0	102.7
10月	113.4	12.2	17.4	7.4	1.1	126.8
11月	66.7	6.5	11.9	1.4	1.1	130.2
12月	25.2	1.7	6.5	-2.7	1.2	133.6
年	1,232.0	10.3	15.2	5.7	1.2	1,618.1

(年間あたりの近隣・全国主要都市との比較)

札幌	1,127.6	8.5	12.5	4.8	3.8	1,774.8
福島	1,105.0	12.8	17.6	8.6	2.4	1,783.1
新潟	1,775.8	13.5	17.2	10.2	3.2	1,651.0
東京	1,466.7	15.9	19.7	12.5	3.3	1,847.2
大阪	1,306.1	16.5	20.7	12.9	2.6	1,967.1
福岡	1,632.3	16.6	20.5	13.0	2.9	1,848.5
那覇	2,036.9	22.7	25.3	20.5	5.3	1,820.9

(資料:気象庁「小野新町」アメダスデータ)

(注) 平年値とは連続する 30 年間について算出した累年平均値をいう。2001~2010 年の間は、1971~2000 年(昭和 46~平成 12 年)の資料から算出された平年値を使用する。小野新町のアメダスデータは 1979 年以降から存在しているため、1979 年~2000 年の 22 年間の累年平均値である。その他の都市はすべて 1971 年からデータを取得している。

ただし、小野新町アメダスの設置位置は小野町中心部の町役場本庁舎北側にあり、東西に 30m 程度の高低差のある丘陵が接近した環境にあります。このことから、小野町における日照時間が単に気象条件によるものだけではなく、計測機器の設置環境にも影響を受けているものと考えられます。

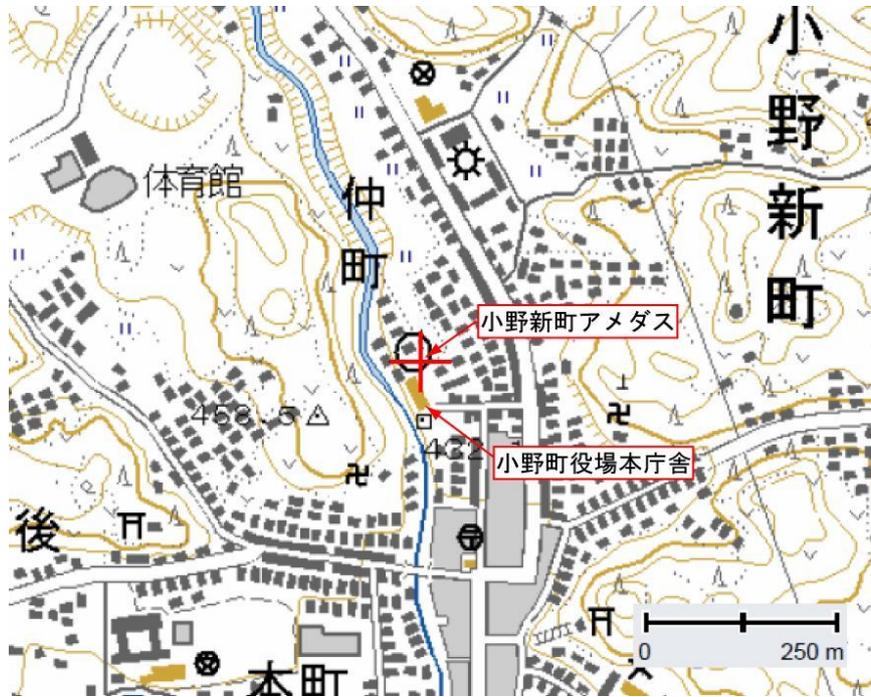


図 2-4 小野新町アメダスの設置位置(アメダス位置は中央の十字線)
(資料:国土地理院発行 1/25,000 地形図より作成)

参考として、1977年から2008年までの間の小野新町と福島県内(福島、小名浜、若松)における日照に関するデータを比較します。

日照時間をみると(次ページ図 2-5)、小野新町は他の3地点に比べて低い傾向にあります。不照日数^(注)(次ページ図 2-6)をみると、小野新町は他の3地点との差がある年では10~20日程度多い傾向にあります。

(注) 日照時間が 0.1 時間未満の日の年間日数

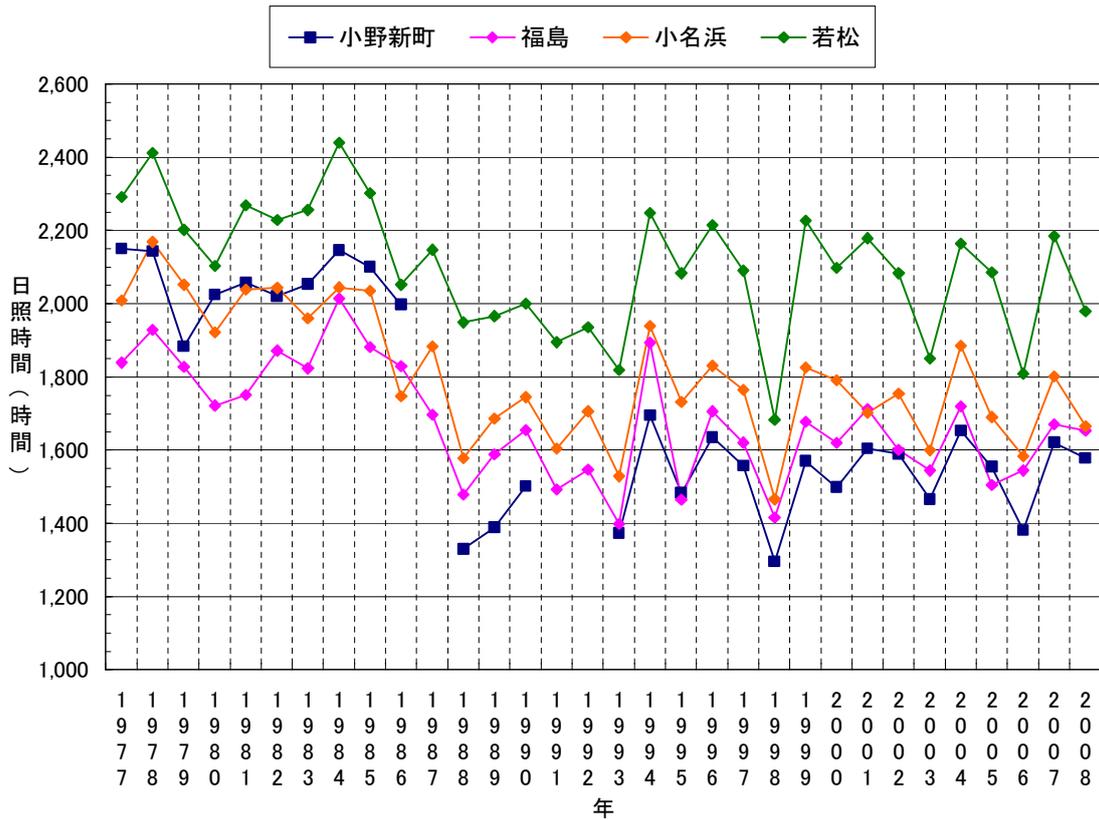


図 2-5 日照時間の比較(資料:気象庁)

※小野新町データ欠損年:1987、1991、1992年

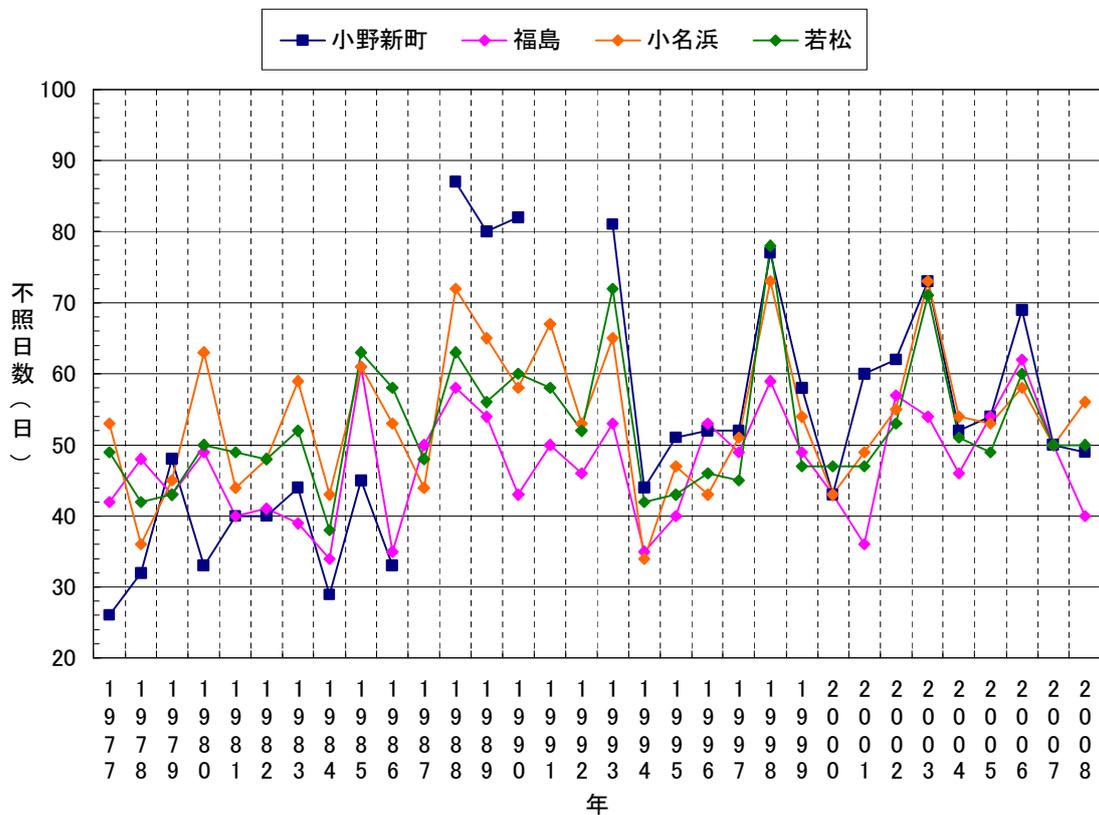


図 2-6 不照日数(日照時間が0.1時間未満の日の年間日数)の比較(資料:気象庁)

※小野新町データ欠損年:1987、1991、1992年

第3節 社会環境

(1) 人口と世帯数の推移

小野町の人口は、統計データのある昭和 35 年以降現在に至るまで減少傾向にあります。世帯数は増加していますが、一世帯当りの人数が減少していることから、核家族化、少子化が進行していることが考えられます。

表 2-4 人口と世帯数の推移

(単位:人)

	昭和 35年	昭和 40年	昭和 45年	昭和 50年	昭和 55年	昭和 60年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 21年
男性	8,415	7,928	7,359	6,890	6,763	6,703	6,478	6,496	6,095	6,059	5,548
女性	9,026	8,667	8,139	7,626	7,322	7,151	6,953	6,810	6,460	6,409	5,889
計	17,441	16,595	15,498	14,516	14,085	13,854	13,431	13,306	12,555	12,468	11,437

(単位 世帯数:戸、一世帯当りの人数:人)

	昭和 35年	昭和 40年	昭和 45年	昭和 50年	昭和 55年	昭和 60年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 21年
世帯数	3,202	3,295	3,357	3,375	3,380	3,435	3,413	3,603	3,529	3,547	3,752
一世帯当りの人数	5.45	5.04	4.62	4.30	4.17	4.03	3.94	3.70	3.55	3.52	3.05

(資料:国勢調査(~H17)・現住人口調査(H21))

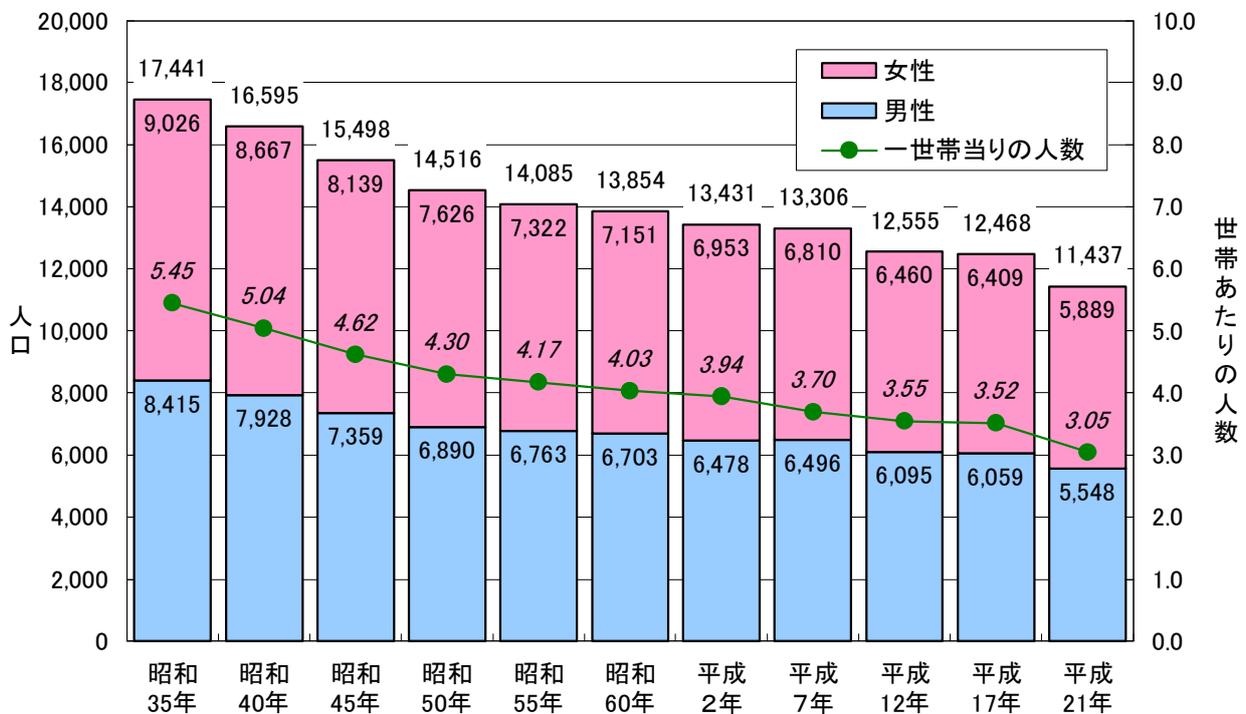


図 2-7 人口と世帯数の推移

(資料:国勢調査(~H17)・現住人口調査(H21))

(2) 年齢別人口構成

国勢調査によれば、小野町の年齢別人口構成は表 2-5 のように推移しています。平成 17 年度の調査結果によると(表 2-6)小野町では、65 歳以上人口の比率が全体の 26.5%となっており、高齢化が進んでいるといえます。

表 2-5 年齢別人口構成の推移

国勢調査実施年	人口総数	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上人口
昭和 60 年	13,854	3,171	8,968	1,715
平成 2 年	13,431	2,888	8,454	2,089
平成 7 年	13,306	2,491	8,206	2,609
平成 12 年	12,555	2,068	7,512	2,975
平成 17 年	12,105	1,691	7,208	3,206

表 2-6 小野町と福島県全体の年齢別人口構成比較

年 齢 層	小野町		福島県全体	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
15 歳 未 満 人 口	1,691	14.0	307,294	14.7
15 ～ 64 歳 人 口	7,208	59.5	1,307,734	62.5
65 歳 以 上 人 口	3,206	26.5	474,860	22.7
人 口 総 数	12,105	—	2,091,319	—

(資料：国勢調査)

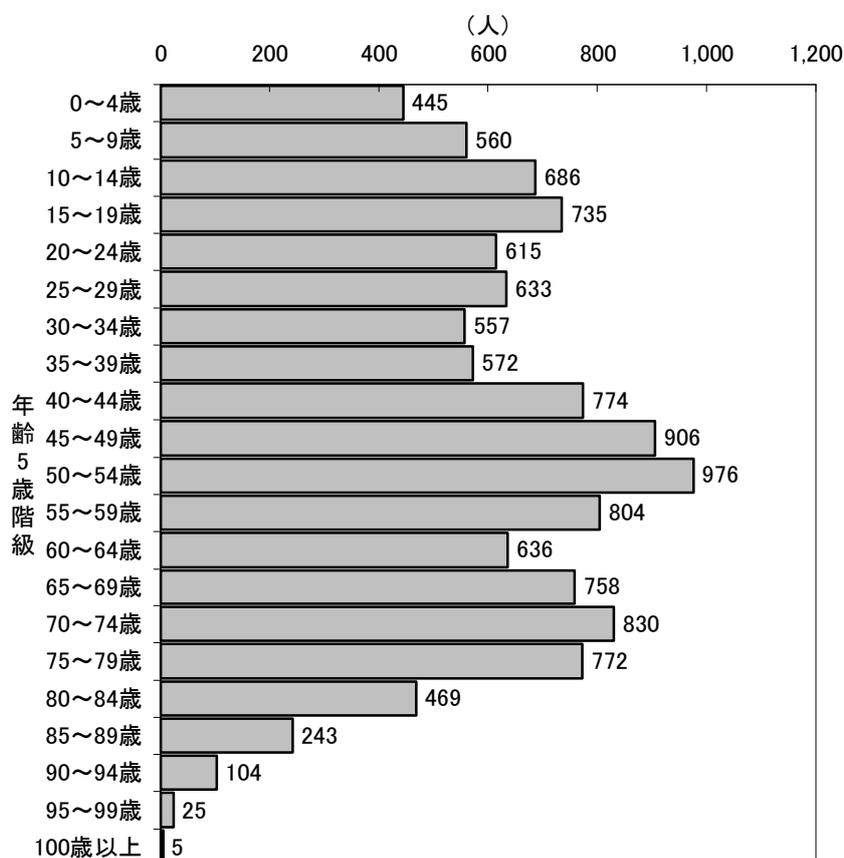


図 2-8 小野町の年齢 5 歳階級別人口(資料：平成 17 年国勢調査)

(3) 産業別就業者数の推移

小野町の産業別就業者数の推移をみると、総数は昭和 35 年以降減少傾向にあります。

特に第一次産業（農・林・水産業）の減少が大きく、昭和 35 年の 5,016 人をピークに平成 17 年には 880 人まで落ち込んでいます。

その反面、第二次産業（鉱業、建設業、製造業）の増加が大きく、平成 12 年では総数に占める割合がもっとも高くなっています。

第三次産業（電気・ガス・水道業、運輸、卸売・小売業、サービス業等）は昭和 35 年以降現在に至るまでほぼ横ばいか微増の傾向にあります。

表 2-7 産業別就業者数の推移

(単位:人)

	昭和 35年	昭和 40年	昭和 45年	昭和 50年	昭和 55年	昭和 60年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年
第一次産業	5,016	4,186	3,871	3,229	2,888	2,495	1,758	1,358	1,107	880
第二次産業	1,080	1,024	1,627	1,834	2,085	2,630	2,967	3,170	2,874	2,657
第三次産業	2,169	2,254	2,332	2,348	2,465	2,406	2,493	2,663	2,627	2,774
計	8,265	7,464	7,830	7,411	7,438	7,531	7,218	7,191	6,608	6,321

(資料:国勢調査)

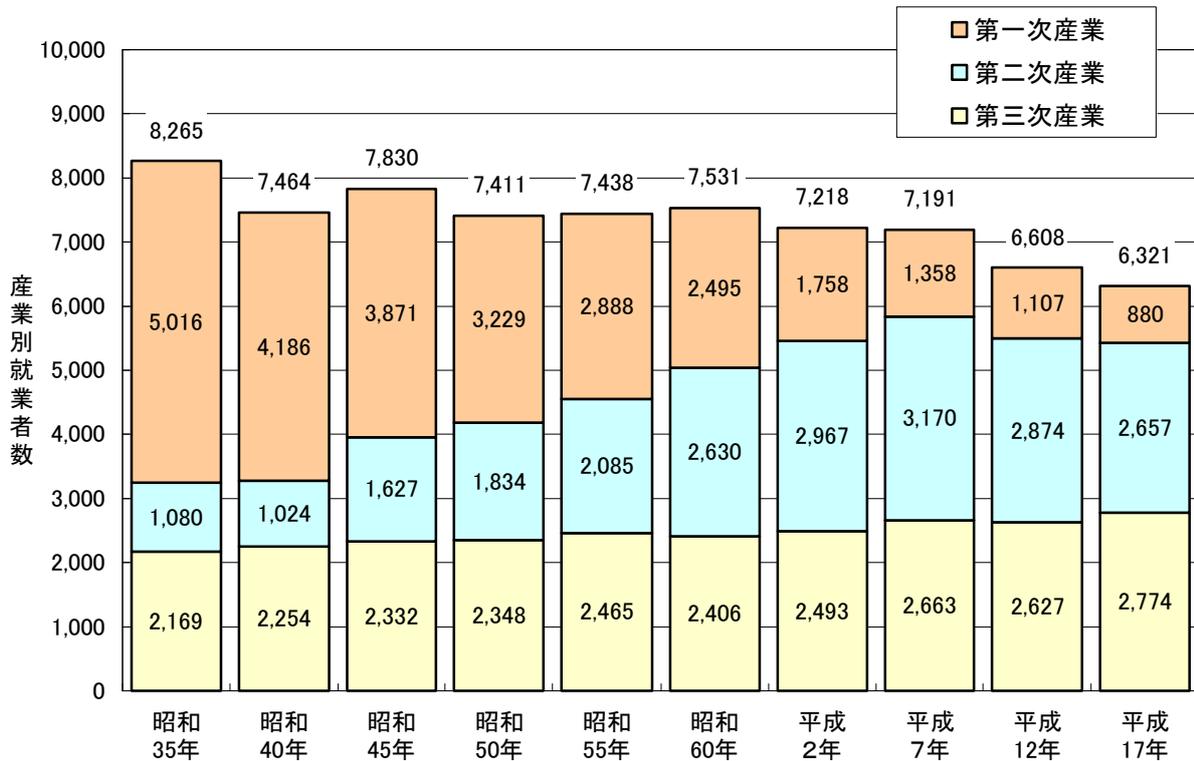


図 2-9 産業別就業者数の推移

第4節 経済環境

平成 18 年に行われた「事業所・企業統計調査」の結果によれば、小野町内の全ての産業における事業所数の合計は 633 箇所であり、そこで働く従業者数は 4,720 人とされています。

事業所数では「卸売・小売業」がもっとも多く 220 箇所、従業員数では「製造業」がもっとも多く 1,613 人でした。

従業員の男女構成比はおよそ男：女 = 53：47 となっています。

表 2-8 産業分類別の事業所数と従業者数

分産 類業	産業小分類	小野町				福島県			
		事業所数 (所)	従業者数 (人)	うち男 (人)	うち女 (人)	事業所数 (所)	従業者数 (人)	うち男 (人)	うち女 (人)
第一次	A～R 全産業	633	4,720	2,476	2,244	101,573	911,463	515,318	396,145
	A～C 農林漁業	4	80	62	18	535	5,745	3,595	2,150
	A 農業	3	79	61	18	363	4,396	2,474	1,922
	B 林業	1	1	1	0	137	939	794	145
	C 漁業	-	-	-	-	35	410	327	83
第二次	D～R 非農林漁業	629	4,640	2,414	2,226	101,038	905,718	511,723	393,995
	D 鉱業	-	-	-	-	74	706	587	119
	E 建設業	63	391	341	50	11,888	84,397	70,950	13,447
第三次	F 製造業	86	1,613	855	758	8,547	193,390	121,143	72,247
	G 電気・ガス・熱供給・水道業	1	3	3	0	229	7,096	6,352	744
	H 情報通信業	-	-	-	-	561	8,065	5,248	2,817
	I 運輸業	11	135	115	20	1,837	39,133	33,559	5,574
	J 卸売・小売業	220	1,076	470	606	28,229	180,601	89,845	90,756
	K 金融・保険業	4	36	22	14	1,600	19,244	9,737	9,507
	L 不動産業	7	11	6	5	4,229	9,468	5,571	3,897
	M 飲食店、宿泊業	54	174	70	104	12,388	68,721	25,196	43,525
	N 医療、福祉	34	431	87	344	5,446	82,220	20,157	62,063
	O 教育、学習支援業	23	224	111	113	4,252	42,968	20,258	22,710
	P 複合サービス事業	8	77	61	16	1,075	13,421	9,402	4,019
Q サービス業(他に分類されないもの)	109	332	161	171	19,670	127,429	70,452	56,977	
R 公務(他に分類されないもの)	9	137	112	25	1,013	28,859	23,266	5,593	

(注)・事業所は個人、法人(会社等)の形態含む
 ・「-」で示したものは実数がないもの

(資料：平成 18 年事業所・企業統計調査)

(1) 農業の状況

農業産出額の推移(表 2-9・図 2-10)をみると、小野町全体・全種で年間当たり約 21～25 億円で推移しています。平成 18 年の数値をみると米、肉用牛、乳用牛(生乳含む)の割合が高くなっています。

表 2-9 農業産出額の推移

(単位:千万円)

年次	耕種					
	小計	米	麦類	雑穀豆類	いも類	野菜
平成12年	161	77	0	2	3	34
平成13年	153	73	0	1	3	32
平成14年	153	71	0	1	2	36
平成15年	137	63	0	1	2	31
平成16年	133	61	0	1	2	31
平成17年	122	60	0	1	3	28
平成18年	117	58	0	1	2	29

年次	耕種(つづき)			
	果実	花き	工芸農作物	種苗苗木他
平成12年	1	2	41	1
平成13年	0	1	43	0
平成14年	0	1	42	0
平成15年	0	1	39	0
平成16年	0	1	37	0
平成17年	0	1	30	1
平成18年	0	1	27	0

年次	畜産					農業産出額 合計
	小計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	
平成12年	91	36	55	-	0	250
平成13年	x	26	53	-	0	231
平成14年	x	33	59	-	-	246
平成15年	92	36	56	-	-	229
平成16年	93	39	55	-	-	227
平成17年	100	46	54	-	-	223
平成18年	98	45	53	-	-	215

(注)「x」:公表されていないもの 「-」:事実のないもの

(資料:生産農業所得統計)

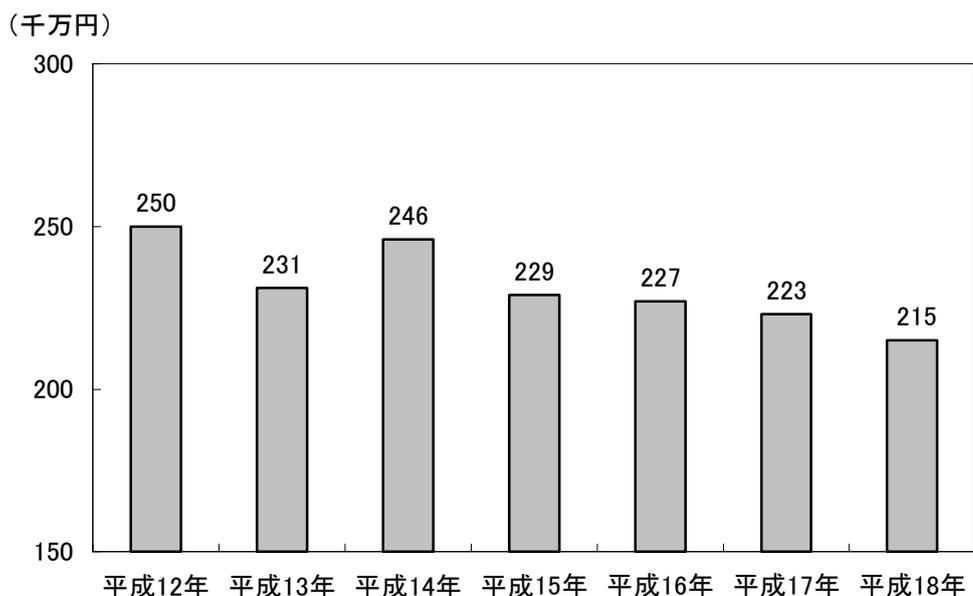


図 2-10 農業産出額の推移

(資料: 生産農業所得統計)

「世界農林業センサス」によると、農家数および農家人口は 2000 年(平成 12 年)から 2005 年(平成 17 年)にかけ、減少しています。自給的農家が増え、販売農家は減少しています。

表 2-10 農家数の推移

(単位: 人・戸)

年次	総農家数	農家人口	自給的農家	販売農家
2000 年	1,135	5,584	155	980
2005 年	1,073	5,079	183	890

年次	専業農家	兼業農家		
		総数	第1種	第2種
2000 年	58	922	160	762
2005 年	88	802	145	657

(資料: 世界農林業センサス)

(2) 林業

小野町の林野面積の合計は 8,843ha ですが、その内訳は表 2-11 に示すようになっています。9 割近い 7,900ha が民有林となっており、そのうち 7,470ha が私有林^(注)です。

表 2-11 所有形態別林野面積

(単位:ha)

国有	林野庁		943
	林野庁以外の官庁		-
	計		943
民有	緑資源機構		-
	公有	小計	430
		都道府県	208
		森林整備法人	73
		市区町村	149
		財産区	-
	私有	7,470	
計	7,900		
合計			8,843

(資料:2005 年世界農林業センサス)

森林蓄積^(注2)をみると(表 2-12)、人工林では大部分が針葉樹となっており、天然林をあわせた全体では約 8 割が針葉樹です。

表 2-12 森林蓄積の状況

(単位:100m³)

人工林	針葉樹	12,974
	広葉樹	56
	計	13,030
天然林	針葉樹	152
	広葉樹	3,575
	計	3,727
合計	針葉樹	13,126
	広葉樹	3,631
	計	16,757

(資料:2005 年世界農林業センサス)

(注) 私有林:個人、会社、社寺、共同(共有)、各種団体・組合等が所有している森林をいう。

(注2) 森林法(昭和26年法律第249号)に基づく森林計画(地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画)対象の森林における当該計画樹立時の立木の材積をいう。

(3) 工業・製造業

「工業統計」によると、小野町の工業・製造業の事業所数は 50 箇所前後で推移しています。従業員数も 1,800 人前後で推移しています。製造品出荷額は、平成 12 年～13 年にかけて大きく落ち込みましたが、その後は 200 億円前後で推移しています。

表 2-13 小野町と福島県の工業・製造業の推移

年次	小 野 町			福 島 県		
	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 (万円)	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 (万円)
平成 12 年	51	1,806	3,461,763	6,335	201,627	570,871,578
平成 13 年	42	1,847	2,080,554	5,870	191,453	537,339,082
平成 14 年	41	1,897	1,919,453	5,433	179,644	515,513,511
平成 15 年	46	1,675	2,071,321	5,474	179,415	522,041,875
平成 16 年	42	1,736	2,179,886	5,166	180,936	548,529,725
平成 17 年	46	1,948	2,337,292	5,204	182,399	556,857,652
平成 18 年	46	2,034	2,409,849	4,870	185,391	591,465,627
平成 19 年	47	1,838	2,299,734	4,848	192,594	618,055,774

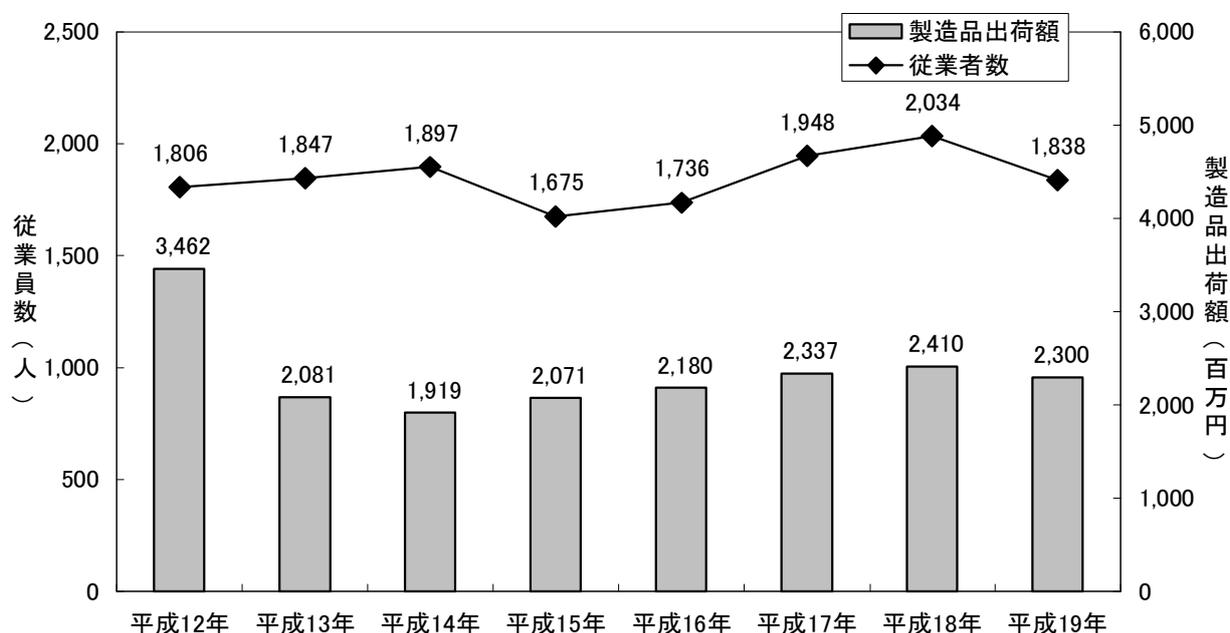


図 2-11 小野町の製造品出荷額と従業員数の推移

(資料：工業統計)

(4) 商業

「商業統計」によると、小野町における卸売業は、平成11年には年間販売額が20億円を超えていたものの、平成19年には3億円余りと大幅に落ち込んでいます。その商店数も平成11年から14年にかけて半減しています。

小売業は平成11年以降、年間販売額が微増の傾向にあり、商店数は減少しているものの、売り場面積はほぼ倍増しています。

表 2-14 商店数、従業員数、年間販売額の推移

年次	卸売業			小売業			
	商店数 (所)	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)	商店数 (所)	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)	売場面積 (m ²)
平成11年	21	89	2,183	207	814	10,819	13,744
平成14年	9	44	641	212	1,057	13,116	—
平成16年	12	41	528	206	990	12,038	—
平成19年	10	33	329	186	907	12,516	24,481

(資料:商業統計)

第5節 その他

(1) 交通網

小野町は、町の中央を磐越自動車道が縦断し、その小野インターチェンジを起点に国道・県道などの道路交通網が形成されています。

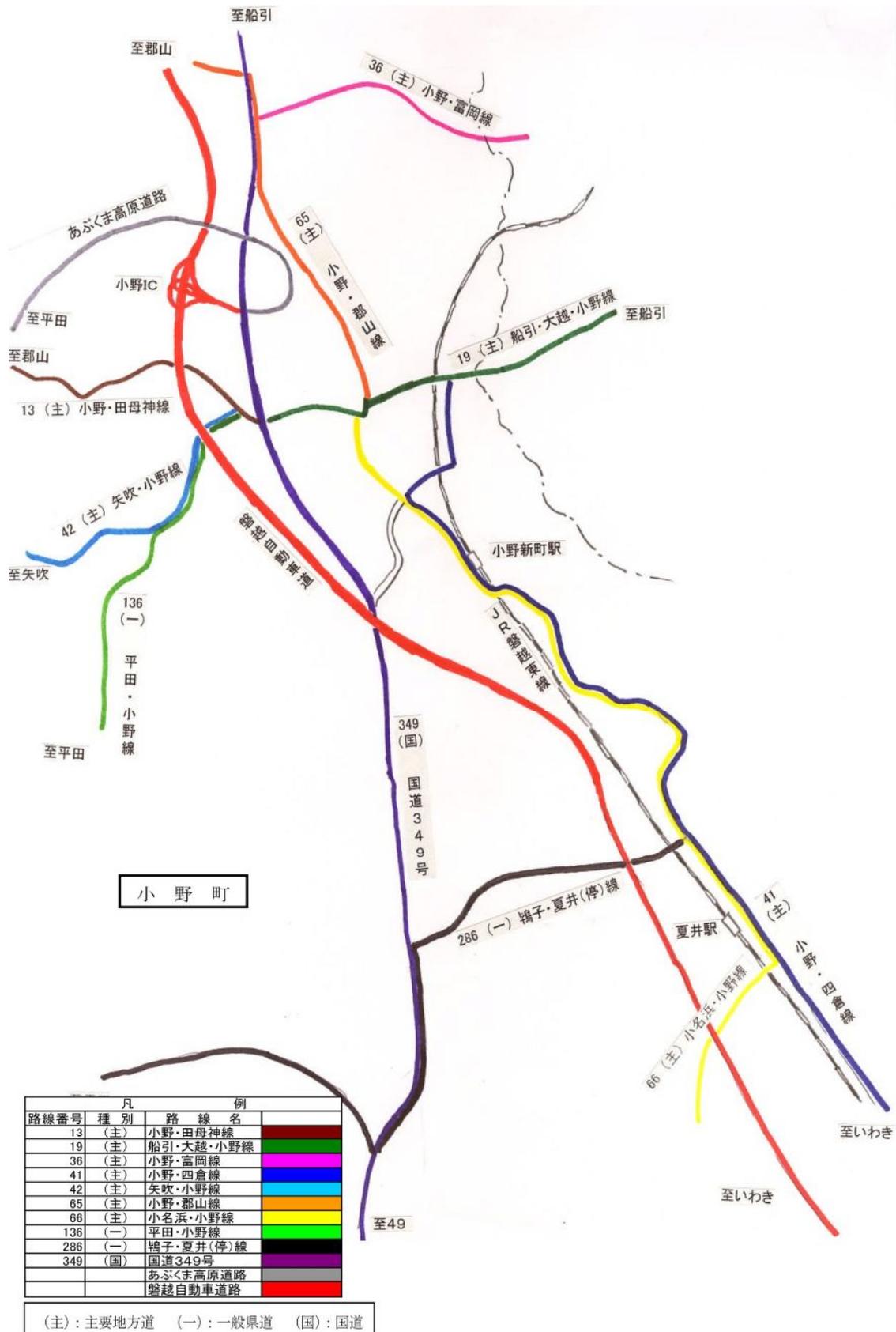


図 2-12 小野町の交通網図(資料:小野町)

(2) 河川網

小野町の河川は、町の中央を右支夏井川が流れ、その左右岸に各支川が分布している状況です。

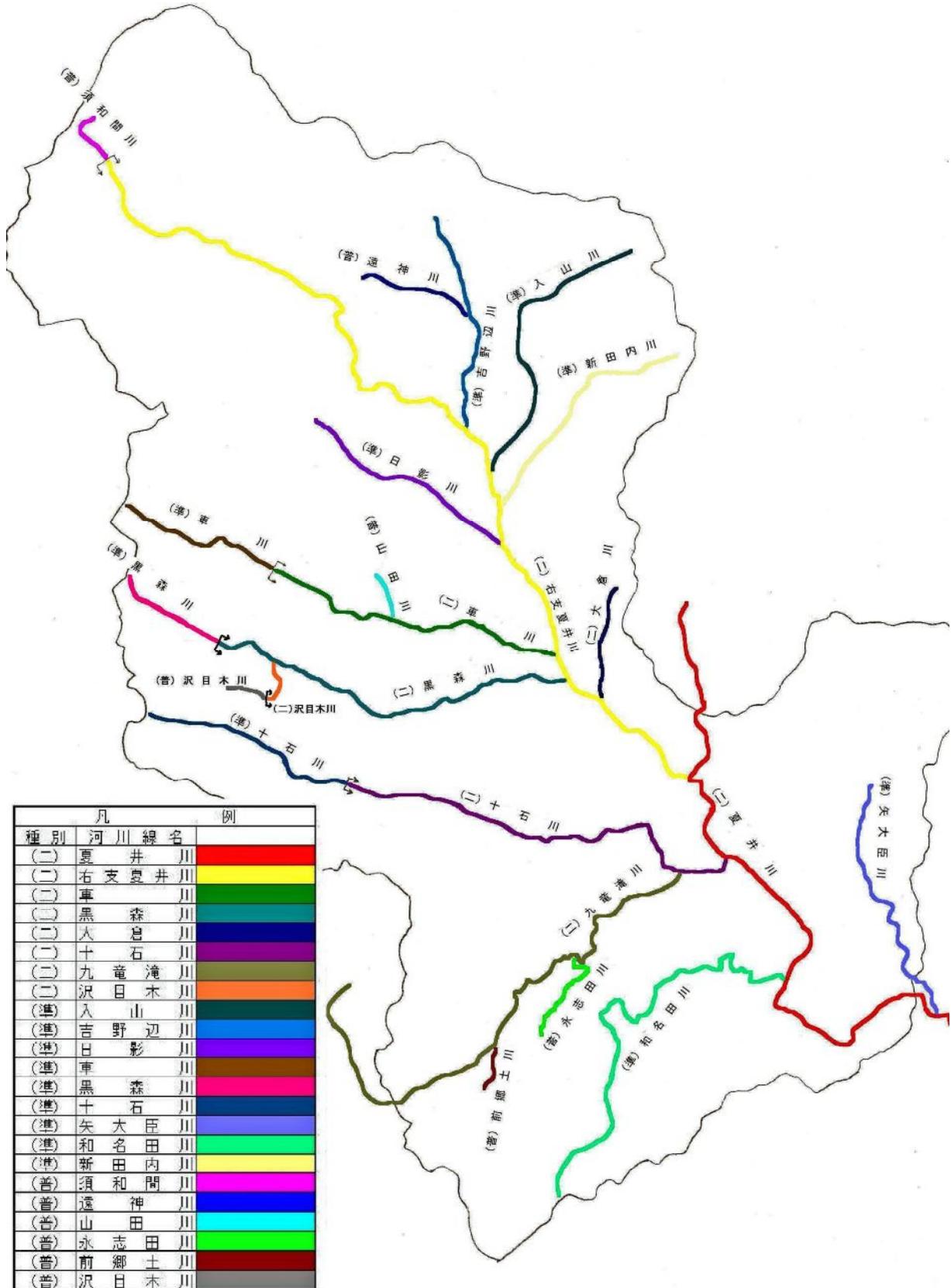


図 2-13 小野町の河川網図(資料:小野町)

(3) 公共施設

小野町内には全部で47箇所の公共施設があります。

表 2-15 小野町内の公共施設の一覧

番号	名称	住所
1	小野町役場	大字小野新町字館廻92
2	教育委員会(教育課)	大字小野新町字中通2
3	公民館	大字小野新町字中通2
4	町民体育館	大字小野新町字美売65-1
5	ふるさと文化の館	大字小野新町字中通2
6	こまち浄水場	大字葛蒲谷字堂田40-15
7	八反田浄水場	大字小野新町字八反田183
8	槻木内浄水場	大字小野新町字槻木内2
9	屋内ゲートボール場	大字小野新町字小太内28-1
10	在宅介護支援センター	大字小野新町字美売57
11	老人デイサービスセンター	大字小野新町字美売57
12	保健福祉センター	大字小野新町字槻木内6-2
13	ゆ〜ゆ〜こまち	大字小野新町字狐平7
14	火葬場おの悠苑	大字小野新町字馬番21-1
15	緑とのふれあいの森公園	大字小戸神字宮ノ前397-2
16	体験農園管理休憩施設	大字湯沢字館ノ越9
17	活性化センター(体育館)	大字湯沢字仲平85
18	多目的研修集会施設	大字小野新町字中通2
19	本町地区コミュニティーセンター	大字小野新町字本町32
20	大八多目的集会所	大字小野新町字知宗80
21	谷津作地区研修センター	大字谷津作字前之内57
22	小野赤沼多目的集会施設	大字小野赤沼字寺前72
23	雁股田地域活性化拠点施設	大字雁股田字関場90-2
24	皮籠石多目的集会施設	大字皮籠石字北ノ内23
25	飯豊下多目的集会施設	大字飯豊字一盃森53
26	吉野辺集落センター	大字吉野辺字仲神142
27	浮金集落センター	大字浮金字須和間112
28	小戸神集落センター	大字小戸神字本南内346-2
29	夏井多目的集会施設	大字夏井字町屋43
30	湯沢転作促進研修センター	大字湯沢字仲平23
31	塩庭多目的集会施設	大字塩庭字夫内194
32	塩庭二区多目的集会施設	大字塩庭字日天前70-1
33	上羽出庭地区農村研修センター	大字上羽出庭字辻ノ内84
34	和名田集落研修センター	大字和名田字戸沢180-2
35	小野わかば幼稚園	大字小野新町字万景上43
36	中央さくら保育園	大字小野新町字万景上8
37	飯豊ひまわり保育園	大字飯豊字寺ノ下51
38	夏井おおすぎ保育園	大字夏井字町屋43-5
39	浮金つつじ児童園	大字浮金字須和間180
40	小野新町小学校	大字小野新町字万景43
41	飯豊小学校	大字飯豊字浮内46
42	浮金小学校	大字浮金字宇東42
43	小戸神小学校	大字小戸神字本南内337
44	夏井第一小学校	大字夏井字太子堂60
45	夏井第二小学校	大字上羽出庭字辻ノ内161
46	小野中学校	大字谷津作字和久59
47	浮金中学校	大字浮金字林内177

(平成21年12月時点)

(資料:小野町)

(4) 自動車保有台数

小野町における自動車登録台数は9,695台であり、そのうち乗用車と軽自動車が大部分を占めています。

一人当たり、世帯当たりで単純割りし、福島県の値と比較してみると、どちらも小野町の値の方が上回っています。

表 2-16 自動車保有台数

(単位:台)

	貨物車	乗合車	乗用車	特殊用途車	大型特殊車	小型二輪車	軽自動車	合計
小野町	899	41	4,333	180	28	146	4,068	9,695
福島県	138,113	5,385	783,606	28,518	4,776	22,474	585,927	1,568,799

	人口	世帯数	一人当たり保有台数	
			一人当たり保有台数	世帯当たり保有台数
小野町	11,692	3,787	0.83	2.56
福島県	2,057,199	722,282	0.76	2.17

(注)各車両数は平成20年3月31日時点、人口・世帯数は平成20年4月1日時点

(資料:福島運輸支局「運輸支局要覧 2008」)

(5) ごみ処理の状況

平成18年度における、小野町のごみの総排出量は、年間3,252tでした。焼却処理量は減少傾向にあり、リサイクル率が向上しつつあります。

表 2-17 ごみ処理の状況(年間当たり)

年次	処理人口 (人)	総排出量 (t)	総収集量 (t)	処理内訳			リサイクル率 (%)
				焼却処理 (t)	資源化 (t)	その他資源化 (t)	
平成16年度	12,520	3,564	2,807	2,881	455	228	14.9
平成17年度	12,424	3,615	2,785	2,851	465	299	15.0
平成18年度	12,270	3,252	2,469	2,464	470	293	19.8

(資料:福島県の一般廃棄物処理の状況)

「地域特性」の調査結果を総括すると以下のとおりとなっています。

小野町の地域特性についての概要

- ・ 小野町は、福島県の中央部、阿武隈山系に位置しており、四方を 700m を超える山々に囲まれ、市街地の標高は約 400m です。
- ・ 町の総面積 12,511ha のうち、約 3 分の 2 にあたる 8,843ha が林野であり、耕地面積は 1,610ha です。
- ・ 内陸性の気候で、山岳気候を呈する準高冷地のため、夏は比較的涼しく、冬期には氷点下にもなります。降雨量は年間でも 1,200mm 程度と少ない。日照時間は、年間で 1,600 時間台であり、全国主要都市と比較しても、日照時間は少ない。風速は年間平均でも 1m/s 台とおだやかです。
- ・ 統計データのある昭和 35 年以降の人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加傾向にあります。
- ・ 就業人口はおよそ 6,311 人で、第一次産業従事者が 880 人（約 13.9%）、第二次が 2,657 人（約 42.1%）、第三次が 2,774 人（約 44.0%）となっています。昭和 30 年代からの推移を見ると、第三次の就業人数はほぼ横ばいで変化が見られないが、第一次と第二次の構成比が逆転の傾向にあります。
- ・ 町内には全業種では 400 を超える事業所があります。最も多い事業所は「小売業商店」です。
- ・ 農業をみると、農家数は 1,073 戸あり、農家人口は 5,079 人です。うち基幹的に農業に従事しているのは 1,017 人で、うち 417 人が 65 歳以上です。
- ・ 耕種農業では「米」がもっとも農業産出額が多くなっています。畜産の農業産出額は、「乳牛」「肉牛」のみとなっています。
- ・ 自動車の保有割合が大きく、1 世帯あたり 2.56 台の自動車を保有しています。